

- 自然と人との共生をめざして -

公益財団法人 淡海環境保全財団

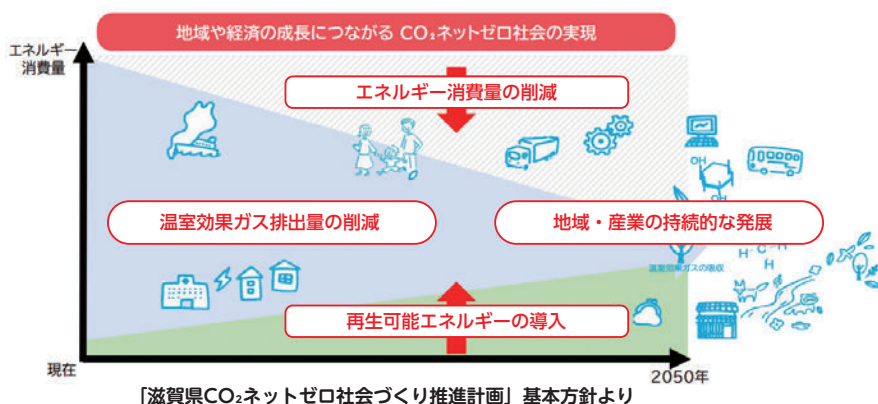
表紙写真：夕暮れ時のびわ湖岸（草津市）

CO₂ネットゼロ社会の構築に向けて大きく踏み出しました ～滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進条例の制定および推進計画の策定について～

琵琶湖や日々の生活にも、気候変動の影響による脅威が身近に迫っています。滋賀県が新たに制定した条例において、温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにすること、すなわち「CO₂ネットゼロ社会」の実現を目指すことが、初めて明記されました。そして、その実現のための取り組みを通じて、県民生活の豊かさや、地域や経済の持続的な発展につなげる、「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」が策定されました。

私たちが目指す「CO₂ネットゼロ社会」の姿

「CO₂ネットゼロ社会」とはどんな社会でしょうか？それは、地球温暖化問題が解決するだけでなく、健全で質の高い環境を確保しながら、県民生活の向上および経済の健全な発展を図り、持続的に発展することができる社会をいいます。県の推進計画で、「基本方針」として下の図が示されています。これを見ればもう少しイメージしやすくなるのではないのでしょうか。



CO₂ネットゼロ(実質ゼロ)とは…？

CO₂などの温室効果ガス排出量から、森林などで吸収される量を差し引いた値がゼロになること。このためには、CO₂の排出量を減らすこと、吸収量を増やすことの両方が求められます。



「温室効果ガス排出量の削減」のためには、まず、そもそもの「エネルギー消費量を削減」することが大切です。たとえば、窓の断熱などの住宅改修や省エネ性能の高い機器を選ぶことは、大きな省エネ効果があります。

あわせて、その使用するエネルギーを石炭、石油といった化石燃料に代えて、太陽光や風力などの「再生可能エネルギーを導入」することで、CO₂の排出量を削減することができます。そして、森林吸収源の助けを借りて、2050年にCO₂ネットゼロ社会を達成します。その際、同時に大切なことは、単に「温室効果ガス排出量の削減」のみを目指すのではなく、

- ① 「持続可能」—環境・経済・社会のバランスのとれた持続可能な滋賀の実現—
- ② 「グリーン・リカバリー」—省エネ・再エネなど関連産業の振興によるグリーンな経済成長の実現—
- ③ 「地域循環」—地域のあらゆる資源が地域内で利活用される地域循環社会の実現—

の3つを重視し、地域や産業が持続的に発展し続けている社会であることです。

Index

- | | | | |
|-----|--|---|--|
| 1-2 | 表紙特集
CO ₂ ネットゼロ社会の構築に向けて大きく踏み出しました
～滋賀県CO ₂ ネットゼロ社会づくり推進条例の制定および
推進計画の策定について～ | 4 | 日本ヨシ紀行～ヨシの風景を訪ねて～ 青森県弘沼
滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク 太田 知子さん |
| 3 | その人に聞く 作詞家・エッセイスト 麻生 圭子さん | 5 | 滋賀県の脱炭素社会に向けて～環境省&滋賀県合同シンポジウムが
開催されました |
| | | 6 | おしらせ イベント情報 |

計画に掲げられた野心的な「2030年中期目標」とは

2050年にCO₂ネットゼロを実現するための、2030年に達成すべき高い目標が設定されました。

◆温室効果ガス排出量の削減目標：

23%削減（従来目標）⇒ 50%削減（新目標）

一つは温室効果ガスの排出量を2013年比で50%削減、すなわち半減しなければなりません。これまでの計画では23%削減でしたので、今回の計画ではその倍以上の削減目標となっています。国の削減目標が46%削減ですので、これを上回る意欲的な目標です。

特に、家庭での削減は67%（3分の1に減らす）という大変高い目標で、県民の皆さん一人ひとりの意識改革とライフスタイルの変革がなければ達成できない目標です。

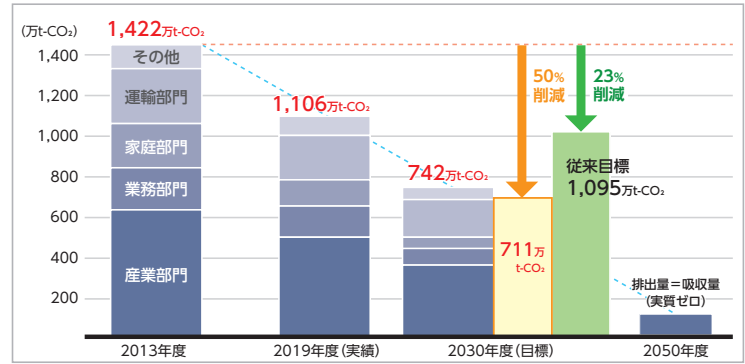
◆再生可能エネルギー導入目標：

現状の2.1倍、特に住宅部門では3.0倍

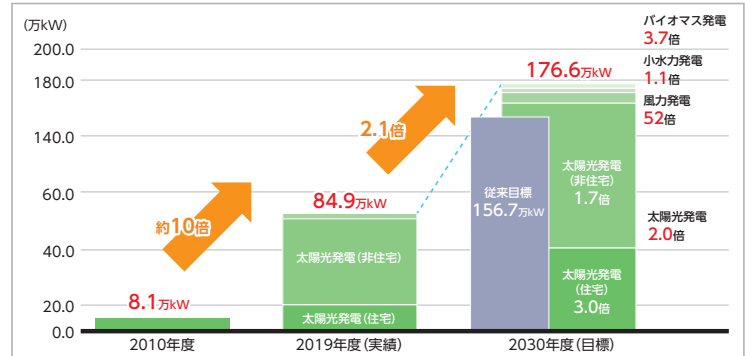
もう一つの大きな目標は、再生可能エネルギーの導入目標です。太陽光や風力など自然の恵みで発電でき無尽蔵にあるクリーンなエネルギーです。このエネルギーを今後10年間で2.1倍に増やすという計画です。

特に、住宅への太陽光発電は3倍に増やす計画になっています。再生可能エネルギーの導入は地球温暖化対策の最重要かつ最も効果的な取り組みです。

温室効果ガス排出量の削減目標



再生可能エネルギー導入目標



CO₂ネットゼロ社会の実現に向けた8つの「挑戦」

このような高い目標を達成し、CO₂ネットゼロ社会を実現するために取り組むべき内容が、8つの「挑戦」として計画に示されています。ここでは、県民の皆さんに関係の深い「ライフスタイルの転換」について特に紹介します。

①CO₂ネットゼロにつながる快適なライフスタイルへの転換

エネルギー消費量を減らす「省エネ」といえば、かつては「我慢する」というイメージでした。たとえばエアコンの設定温度を、省エネのために夏は高く、冬は低く設定し、「我慢」することで使用電力を減らすというもの。しかし、技術の進化とともに、最近のエアコンはエネルギー効率に優れ、さらに健康に良い機能も付加されており、「省エネ」と「快適生活」の両方が可能となります。

そして、家庭での最大の「省エネ」は、住宅の省エネルギー化です。断熱効果を高めた、省エネ性能に優れた住宅では、温度差が少なく快適な室内温度で一年中過ごせます。また、ヒートショックによる脳卒中や心筋梗塞などのリスクも低減できます。さらに、住宅に太陽光発電を設置し、災害時の非常用電源として活用することで、防災対策にもなります。

このように、CO₂削減への取り組みは、健康的、経済的で、防災対策にも優れた、快適な暮らしの実現にもつながります。

当財団では、「スマート・エコハウス普及促進事業」や「次世代自動車導入促進事業」に取り組み、県民の皆さんのライフスタイル転換を後押ししています。



②自然環境と調和するCO₂を排出しない地域づくり

企業における省エネ・再生可能エネルギーの推進や、コンパクトなまちづくりを進めます。

③新たな価値を生み出し競争力のある産業の創出

CO₂ネットゼロ社会の実現に向けて、企業の新技術開発や中小企業の新たなチャレンジを支援します。

④資源の地域内循環による地域の活性化

再生可能エネルギーの拡大を図りエネルギーの地産地消を推進するとともに、廃棄物が地域で循環する仕組みを構築します。

⑤革新的なイノベーションの創出

次世代エネルギーとして期待が高まる水素エネルギーの利活用や、大学・企業の研究開発との連携を推進します。

⑥CO₂ネットゼロ社会に向けたムーブメントの創出

ムーブメントを強力に推進するため、「びわ湖カーボンクレジット」の取り組みを積極的に推進するとともに、「脱炭素社会づくり」にかかわる環境学習に重点的に取り組みます。

⑦気候変動への適応

気候変動の影響は既に生態系や自然災害、健康被害などの形で顕著になってきています。災害への備えを強化するとともに熱中症など健康被害への予防を進めます。

⑧県における率先実施

県の事務事業に伴うCO₂排出量を削減するため、施設の省エネ化や再エネの利用促進が進められます。

県民総ぐるみでCO₂ネットゼロへ

全ての取り組みのベースになるのが「ムーブメント」です。“8つの挑戦”の6番めにも「CO₂ネットゼロ社会に向けたムーブメントの創出」が掲げられています。家庭で、職場で、地域で、あらゆる場面で温暖化対策を「自分ごと」と思う人が増えることで、ネットゼロをめざす動きが高まり、社会を変えようという大きな機運＝ムーブメントが沸き起こることが重要です。

知事の「しがCO₂ネットゼロムーブメント」キックオフ宣言から3年目にあたる今年、新たな条例・計画の策定を経て、「2050年しがCO₂ネットゼロ」に向けて大きな一歩を踏み出しました。その道のりは決して平坦ではありませんが、滋賀県地球温暖化防止活動推進センターとしても、温暖化防止活動推進員の皆さんとともに、県民や事業者、行政などあらゆる主体と連携しながら、CO₂排出削減とあわせて地域と経済の持続的な発展をめざす、「しがCO₂ネットゼロ社会」の構築にチャレンジしてまいります。

自然と人との共生をめざして

その人に 聞く

作詞家・エッセイスト

麻生 圭子 さん

1980年代に作詞家として「最後の言い訳」「Hold On Me」「セシル」など数々のヒット曲を生み出し、その後エッセイストとして活躍されている麻生さん。

麻生さんが、渡英を経て琵琶湖畔に居を構えられたと知ったのは、5年前に始まった週1回の新聞の連載でした。ウォータースポーツ、電車ピワイチなどの体験や、日々の暮らしを発信され、滋賀の良さや当地で暮らすことのありがたさに、改めて気づかせてくれました。コロナ禍の今は、ご夫婦で自宅をリノベーションされながら、どこを切り取っても絵になる住空間とその周辺の美しい風景をSNSで発信され、暮らしそのものを静かに楽しんでおられる様子が伝わります。

しかし、そもそもなぜ滋賀に？そして今、滋賀を気に入ってくださっているのだろうか？そんな思いが叶い、お話をお伺いする機会を頂きました。

— 麻生さんといえば着物姿の印象でしたが、滋賀での暮らしで、ライフスタイルや趣味まで大きく変化されたんですね。東京、京都、ロンドンときて、なぜ人生後半の住まいに滋賀を選ばれたのでしょうか。

麻生さん 滋賀を選んだというより(笑)、湖のほとりを選びました。水の流れには、心を解き放ってくれる、そんな開放感があります。ロンドンの住まいがビッグベンのそばのテムズ河沿いでした。視界が開けていると、心も開けてくるのが非常に気持ち良かったんです。だから、琵琶湖のほとりに。



麻生 圭子さん

— 確かに、滋賀県は真ん中に琵琶湖があるので、空間的に広がる開放感がありますね。

麻生さん 京都に戻らない、あるいは東京に帰らないことに関して、知人たちは驚いていましたが、夫も私も、年齢的にもう心を解放していきたくて思いました。東京は上を向いて生きて行くところ、京都は探求心を持って奥へと進んでいくところ。ここ近江やびわ湖は、パノラマ360°です。山に登ると本当に360°見渡せまし、カヤックで少し沖に出ると、自分は今、湖に抱かれているんだなと感ずることが出来ます。



カヤックで360°を感じている麻生さん
(麻生さんInstagramより)

— 自然の中でまさに360°の開放感が味わえる場所が、ここ、滋賀だと。ずっと住んでいると、滋賀の良さを意識していませんでした。

麻生さん 湧き水と地下水ももらっています。夏の夜空、満天の星はプラネタリウムを見ているよう。初夏の水田が青い空を映しているさまは、まさに水鏡。近江米のブランド名にもありますね。それが琵琶湖に続く場所がうちの近くにあり、毎年、写真を撮っています。

滋賀に住んで6年になりますが、まさか自分が還暦を過ぎたからアウトドアな日々になろうとは思っていませんでした。

森も歩きます。山歩きもします。比良山系の八ツ淵の滝も登りました。鎖やはしごを使って登るルートを選んだので、怖かった(苦笑)。これを上がるの!? と思いましたが、上がってからの達成感はサイコーでした。

— アグレッシブに滋賀の自然を満喫されていますね。環境のために日頃意識されていることがあれば教えてください。

麻生さん 最近、琵琶湖の水草から作られたという肥料を使い始めました。「湖の恵」というブランド名。売上の一部は琵琶湖の環境保全基金に寄付されていると聞きました。ミシガンに乗った時に、絡まって船が止まるんじゃないかっていうくらい、藻や水草だらけのところを進んでいくような場所もありました。緑があるのはいいことのような気もするけど、わざわざ取っているのですよね。

— そう、増えすぎると困るのです。財団の方で水草を刈り取り、たい肥にするなどしています。「湖の恵」も財団から水草を提供しています。(本誌 Vol.27参照)

麻生さん そうなんです。リサイクルに貢献できて、パッケージもセンスが良く、気に入っています。臭いもないし。

近江って、琵琶湖だけでなく、飛鳥時代には短くはあつたけれど、都があつたんですよね。私、湖西線の大津京という駅名に、あれ? と思って調べて、初めて知ったんですよ。大化の改新の天智天皇の近江大津宮、すごいですよ。京都より歴史があるんですね。でも、近江の人たちって、そういうことをあまり自分たちから言わない、県民性なのかな、控え目ですね。

「湖水地方」。近江っていうと古都、古い日本的なイメージももちろんありますけれど、私はイギリスの田舎、田園風景を感じます。

— なんと素敵です。滋賀を「湖水地方」と呼ぶと、イギリスの美しいイメージで発信できそうです。

これからも、肥料のご愛用とあわせて、私たちと一緒に滋賀の良さを発信し続けてください!



湖水地方に見える? 矢橋帰帆島にて

雑誌「婦人画報」
2022年6月号 特集「近江へ！」

冒頭に、麻生さんがメッセージを寄せておられます。合わせてご覧ください。

日本 ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

第12回 ほとけぬま 仏沼 (青森県三沢市)

青森県下北半島の基部に、小川原湖沼群があります。そのなかで一番大きいものが小川原湖であり、その東側にある干拓地が仏沼です。以前、付近一帯は、湖沼が点在する湿地でした。食料増産政策により1963年から71年に干拓されましたが、1970年代の減反政策で、約700haの干拓地のうち、大部分が農地とならずに放置され、ヨシ原となりました。その後、2005年に222haがラムサール条約の登録湿地となりました。

この地域は、秋から冬にかけて「八甲田おろし」と呼ばれる寒風や、春から夏にかけて「ヤマセ」と呼ばれる偏東風が吹く、特有の気候条件があります。



仏沼全景。奥は小川原湖

仏沼はもともと海跡湖で、汽水が入っていました。ヨシ刈り等は行われていませんが、ヨシ原の「火入れ」は行われています。火入れは減反政策の中、将来に水田化することを期待して、雑



木林化を防ぐため地元農家が始めたようです。その後平成7年より、毎年4月中旬に三沢市が実施主体となり、継続されています。

淡水のヨシ原は、ヨシ刈り、火入れをしないとヤナギ等の林に変わってしまいますが、仏沼の北部は地盤が砂地で、かつ強制排水や春の火入れにより、ヨシ原の状態が維持されています。また、干拓の影響で泥、砂地、泥炭地など多様な土壌が存在するという独特の環境により、ヨシの背丈もさまざまとなるなど、多様な環境を生みました。

その結果、多様な植生と豊かな生態系が生まれ、オオセッカなどの希少種を含む野鳥やトンボなどもそれぞれの好適な植生を選び、生息しています。



幻の鳥「オオセッカ」
国内最大の繁殖地



春の火入れ

写真提供：三沢市

滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



太田 知子さん
大津市在住

今回は、ご自身の大学での学びを学校等での講座やイベント等での啓発活動につなげて、幅広い年齢の方に学びの輪を大きく広げておられるこの方です！

環境に興味を持ったのは淡海生涯カレッジという県の募集がきっかけ。久しぶりの大学の授業があまりに新鮮で、もう少し知りたくなった。滋賀大で環境教育を学ぶことで、いろんな方々との出会いがあり、今まで知らなかった多くの事を知ることができた。いくつになっても新しい事は驚きと発見がいっぱいでおもしろい。

地球温暖化って聞いても難しそうで一体何をどうしたらいい？簡単に解決できるものでもないし、答えは一つでないが、まずは現状を知る事から始まるのでは…。

今、学校などでお話して感じるのは子どもたちの感性の豊かさと素晴らしさ。大人とは違う視点で、たくさんの事を感じとってくれていると実感できる。これから子どもたちに現状を伝える事で、自分にできる事や未来にどう繋がるのか考えるきっかけになれば嬉しい。



小学校での出前講座でわかりやすく伝え、子どもたちの意見を引き出す太田さん

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱され、普及啓発活動を推進されています。

第12期滋賀県地球温暖化防止活動推進員委嘱式が開催されました

4月9日に、第12期の滋賀県地球温暖化防止活動推進員委嘱式が開催されました。三日月知事出席のもと117名の推進員の方々に委嘱状が交付され、最年少18歳、最年長89歳の方が代表して今後の活動に向けての力強い抱負を述べられました。今期は、特に10～20代の14名もの若い世代のメンバーに、新たに推進員に加わっていただきましたので、今後のさらなる活躍が期待されます。

知事からは、「CO₂ネットゼロ社会」の実現に向けて、実現は決して容易ではないが、県民、事業者、学生、市町の方などさまざまな主体と連携・協力して挑戦していくことが重要であり、推進員の方々には、出前講座をはじめとする推進員活動において、行政と地域住民との架け橋となっただけのよう活躍を期待しているとの激励の言葉がありました。

これから2年間、当温暖化防止センターでは推進員活動を支援し、一緒に活動を進めていきます。



滋賀の脱炭素社会の実現に向けて ～環境省・滋賀県合同シンポジウムが開催されました

脱炭素社会の実現に向けた、環境省と滋賀県合同のシンポジウムが5月7日、滋賀県庁で開催されました。滋賀県と環境省からの脱炭素施策等の説明のあと、県内の多様な主体が参加するパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、大岡環境副大臣をはじめ、三日月知事や県内3市長、企業、金融機関、経済界、大学、当財団からそれぞれの脱炭素に向けた特徴的な取り組みや課題などが発表され、意見交換が行われました。

当財団からは、理事長と温暖化防止センターのキャリアアドバイザーが登壇し、財団が重点的に進めるCO₂ネットゼロまちづくりや大学生との連携事業のほか、出前講座などの特徴的な推進員活動の報告とともに今後の活動に向けた温暖化防止センターの課題などの提起を行いました。



JICA（国際協力機構）の専門家「グリーン成長政策アドバイザー」の活動を紹介します。



世界各国の観光客を魅了するハロン湾は、海の桂林といわれ、世界遺産に登録されているベトナムを代表する観光地です。大小さまざまな約2,000の奇岩が海面にそそり立つ景色はまさに絶景。外敵がベトナムに攻めてきたとき、龍の親子が天から下りてきて、外敵を追い払いました。そのとき龍が吐き出した宝玉がハロン湾の奇岩になったという伝説があります。ちなみにハロン湾を漢

字で書くと「下龍湾」になります。

この風光明媚なハロン湾でも水質汚染が進んでいます。こうした中、注目されているのが日本の浄化槽です。最も人気の高いティトップ島は一日最大で12,000人も観光客が訪れますが、トイレの汚水を処理するためパイロット事業として浄化槽が導入されました。これにより環境基準を満たす処理が可能となりました。

クアンニン省は世界遺産ハロン湾の価値の保全・向上を重点課題の一つとしており、日本の環境保全技術に大きな期待が寄せられています。



ハロン湾の水質改善に貢献する日本製の浄化槽（ティトップ島）

しがぎんリース・キャピタル株式会社様の カーボンニュートラルリース「サステナリース」の収益の一部を ご寄付いただくこととなりました

本年7月1日（金）より、しがぎんリース・キャピタル株式会社様が、カーボンニュートラルリース「サステナリース」の取扱を開始されることに伴い、脱炭素に資するエコカー導入のリース取引について、収益の一部を当財団にご寄付いただくこととなりました。

このほど、しがぎんリース・キャピタル株式会社代表取締役社長長谷川雅人様が、当財団を訪問され、今後も引き続き、両者が連携して地域の脱炭素化に向けて取り組んでいくことで合意しました。



COOL CHOICEのポスター募集中!!

これ以上地球温暖化が進まないよう、暮らしの中で行う「COOL CHOICE (=賢い選択)」のポスターを、児童生徒の皆さんを対象に募集します。

- 最優秀賞「滋賀県知事賞」(副賞:5,000円の図書券・5,000円相当の賞品)
- 特別賞「京セラ賞」「東京センチュリー賞」「滋賀県地球温暖化防止活動推進センター長賞」(副賞:3,000円の図書券・3,000円相当の賞品)



受賞作品を使用して
カレンダーを作成します。



昨年度の最優秀賞
滋賀県知事賞 受賞作品

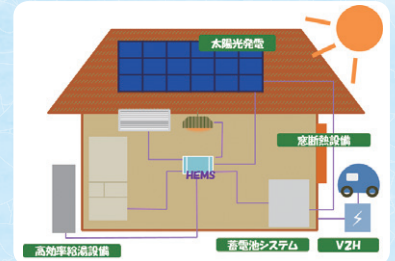
令和
4年度

スマート・エコハウス普及促進事業補助金の募集を行っています

家庭においてエネルギーを「減らす」「創る」「賢く使う」取り組みを総合的に広めるため、個人の既存住宅において、スマート・エコ製品を設置する場合、経費の一部を補助しています。



補助制度の詳細、申請様式は当財団ホームページよりご覧ください。
<https://www.ohmi.or.jp/ondanka/r04smart-eco/>



イベント情報

2022年 6月～7月



イベント名	開催日	時間	場所	内容
【琵琶湖流域下水道50周年記念事業】 マンホール蓋デザインコンクール 優秀賞作品展示	展示中	9:00 } 16:30	淡海環境プラザ	優秀賞4作品のデザインが描かれた実際のマンホール蓋を、草津市矢橋帰帆島公園内にある淡海環境プラザにて展示しています。
令和4年度 スマート・エコハウス普及促進事業補助金 募集開始	5月30日(月)	受付中	公益財団法人 淡海環境保全財団 ※郵送にて受付	個人の既存住宅において、太陽光発電システムや蓄電池、高効率給湯器等の「スマート・エコ製品」を設置する取り組みに対する補助金の申請を受付中です。
第72回全国植樹祭しが2022 ～木を植えよう びわ湖も緑のしずくから～	6月5日(日)	10:00 } 16:00	鹿深夢の森(甲賀市) ほか県内12会場	国土緑化運動の中心的行事である全国植樹祭に協賛し、おもてなし広場に出展します。また、「びわこ地球市民の森」の植樹に高島下水汚泥コンポストが使われます。
NEW! 令和4年度 次世代自動車導入促進事業補助金 募集開始	6月6日(月)	受付中	公益財団法人淡海環境 保全財団(個人向け) ※郵送にて受付	電気自動車、プラグインハイブリッド自動車または燃料電池自動車等の「次世代自動車」の導入に対する補助金の申請を受付中です。
びわ湖の日×MLGs	6月22日(水) } 7月5日(火)	10:00 } 20:00	近鉄百貨店草津店 2階 アクリスポット	琵琶湖に関するこれまでの取り組みを振り返り、今とこれからを考えるイベント。財団も下水道関連の出展をし、6月26日にはワークショップを予定しています。
環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業 ～まなび・つながり・ひろがる～ ※参加申込 2022年7月3日(日)締切	7月～12月 オンライン・対面で複数回開催 ※詳細はホームページでご確認ください			温暖化防止のため、今年はマイボトルの持参とペットボトルのリサイクルを大学の仲間にも普及させる活動を行います。グループ単位で活動を企画、実践、発信して、学生発のムーブメントに広がります。
“しがCO ₂ ネットゼロ”ムーブメント エコキッズ博士になろう!	7月16日(土)	10:00 } 17:00	イオンモール草津 1F セントラルコート	家族で楽しみながら温暖化防止のためにできることを考え、CO ₂ ネットゼロに向けた行動につなげていただくきっかけの場として開催します。
“しがCO ₂ ネットゼロ”ムーブメント エコを楽しもう!	7月17日(日)	11:00 } 15:30	アルプラザ野洲 1F セントラルコート	

公益財団法人 淡海環境保全財団 「明日の淡海」

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団

VOL.38 2022年6月発行
(年4回発行)

〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町帰帆2108番地
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:info@ohmi.or.jp

【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:ondanka@ohmi.or.jp

【淡海環境プラザ】
TEL:077-569-5306 FAX:077-569-5334 E-mail:plaza@ohmi.or.jp



- 用紙:責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
- インキ:環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷

編集後記

排出量と吸収量がバランスする2050年を、正直なところ想像できませんが、まだ見ぬ技術革新を待つだけではいられません。皆さんと同じ目線で、社会を変えるムーブメントの一助となるよう、職員一同努めて参ります。